

# 第 78 回国民体育大会 佐賀県競技力向上基本計画 Ver. 1.0



平成 3 5 年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会  
佐賀県競技力向上対策本部  
(平成 2 8 年 7 月策定)



## 《 目 次 》

はじめに ～ 基本計画の策定の趣旨 ～	P1
第1章 基本的な考え方	P2
1 基本計画の位置付け	
2 基本計画の対象となる期間と目標	
3 基本計画の見直し	
第2章 佐賀県スポーツの現状	
1 佐賀県の競技力の状況	
(1) 国民体育大会の概要と成績	P3
(2) 全国中学校体育大会の成績	P11
(3) 全国高等学校総合体育大会及び全国高等学校選抜大会の成績	P11
(4) 国際大会の成績	P12
2 佐賀県の競技スポーツを取り巻く環境	
(1) 本県の競技人口	P13
(2) 運動部活動の加入状況	P14
(3) 体力・運動能力調査の結果	P14
(4) 企業スポーツの活動状況	P15
(5) 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者資格の取得状況	P17
第3章 競技力向上に向けた具体的な取り組み	
1 取り組むべき4つの柱	P18
2 具体的な競技力向上対策	
(1) 組織体制の整備・充実	P18
(2) 選手の発掘・育成・強化・確保	P19
(3) 指導体制の確立	P22
(4) 競技力向上のための環境整備	P24
3 競技力向上対策の主なスケジュール	P26
第4章 競技力向上基本計画の推進体制	P27
1 推進体制の組織図	
2 推進体制の充実・拡充	
(1) 基本計画に基づく競技力向上対策事業の展開	
(2) 新たな競技力向上対策の立案と組織の充実	

## はじめに ～ 基本計画の策定の趣旨 ～

佐賀県では、平成35年に開催する予定の第78回国民体育大会・第23回全国障害者スポーツ大会に向けた競技力の向上及び障害者スポーツの普及を図るとともに、大会終了後も更なる本県のスポーツの推進に寄与することを目的として、「平成35年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）」を設立した。（平成28年2月）

今後は、有望な選手の発掘や高い指導力を有する指導者の養成、選手を支えるサポート体制の充実等、競技力の向上に資する具体的な施策を提唱し、第78回国民体育大会において、対策本部が掲げる目的を達成するため、ここに『第78回国民体育大会佐賀県競技力向上基本計画』を策定する。

# 第 1 章

## 基本的な考え方

## 第1章 基本的な考え方

### 1 基本計画の位置付け

この基本計画は、第78回国民体育大会（以下「佐賀国体」という。）において、県民の期待に応え、佐賀らしい戦い方で開催県としてふさわしい成績を収めるとともに、大会終了後も安定した競技力が維持されることを目指して、選手の発掘や指導者の養成等に関する具体的な競技力向上対策を示すものである。

### 2 基本計画の対象となる期間と目標

基本計画では、佐賀国体の開催前後を次に掲げる4つの期間に区分し、段階的な競技力の向上を図ることとする。

区 分		目 標
発掘・育成期（H27年度～H29年度）		30位台前半（競技得点 450点以上）
充実期（H30年度～H32年度）		20位台前半（競技得点 600点以上）
完成期	H33年度	10位台前半（競技得点 880点以上）
	H34年度	10位以内（競技得点 1,000点以上）
	H35年度	1位獲得（競技得点 2,200点以上）
定着期（H36年度～）		さがんレガシー（※）としての競技力の維持

※ 「佐賀の」を意味する「さがん」と、「遺産」を意味する英語「legacy（レガシー）」を合わせた言葉で、大会後に佐賀に残したいもののこと。（開催基本構想より）

### 3 基本計画の見直し

基本計画は、競技力向上対策の進捗状況や目標の達成度、国民体育大会改革等の外部環境の変化を踏まえ、適宜見直しを行う。

## 第2章

### 佐賀県スポーツの現状

## 第2章 佐賀県スポーツの現状

### 1 佐賀県の競技力の状況

#### (1) 国民体育大会の概要と成績

国民体育大会は、正式競技<sup>(注1)</sup>の競技得点<sup>(注2)</sup>と参加得点<sup>(注3)</sup>を合計した総合得点をもって、男女総合成績（天皇杯得点）と女子総合成績（皇后杯得点）を競う都道府県対抗方式の大会である。

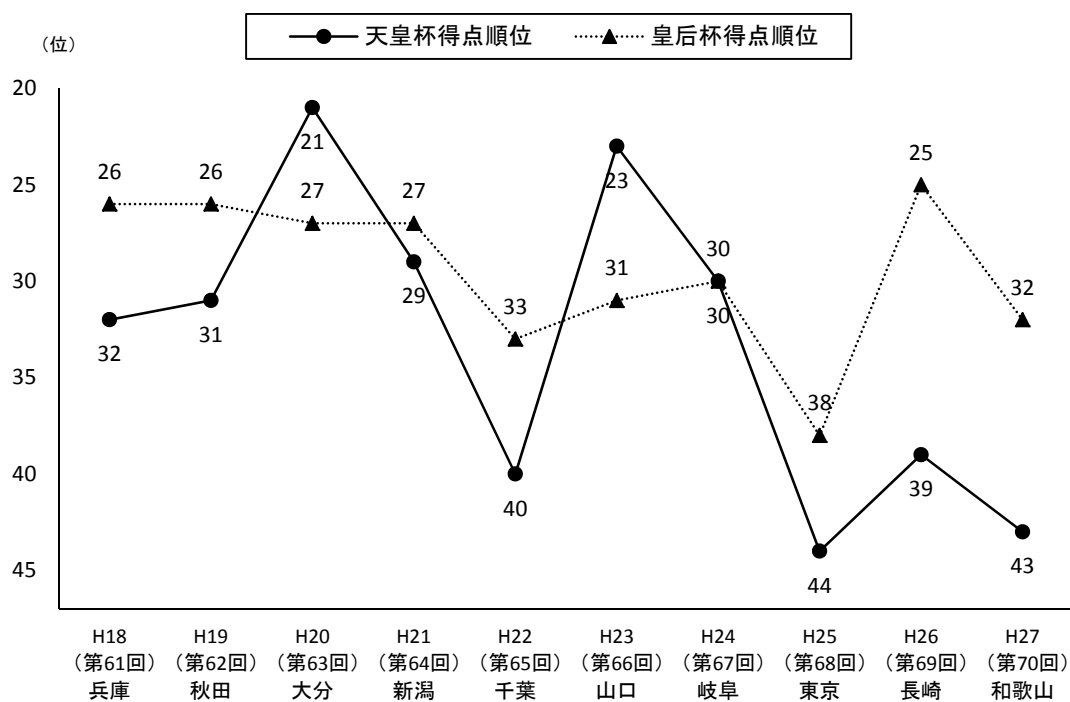
注1 冬季大会3競技（スキー競技、スケート競技、アイスホッケー競技）と秋季大会37競技（陸上競技、水泳競技、サッカー競技 他）を合わせた40競技。

注2 各種別、種目等の第1位から第8位までの都道府県に与えられる（下表参照）。

注3 大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与えられる。1競技につき10点が与えられ、全競技に参加した場合、400点が競技得点に加算される。

区分	人数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	個人	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

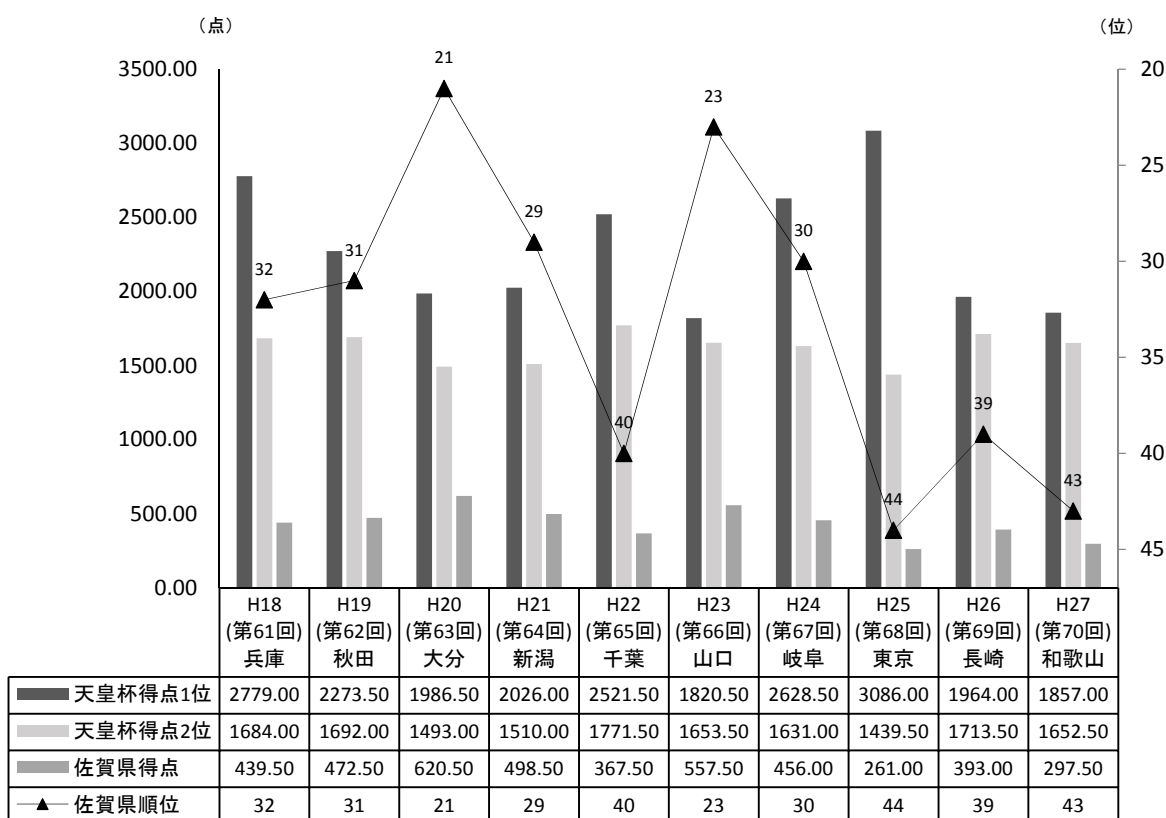
#### ① 本県の天皇杯得点・皇后杯得点の順位推移



過去10年間における天皇杯得点と皇后杯得点の順位の平均は、それぞれ33.2位と29.5位。平成20年の大分国体においては、平成19年に本県で開催された全国高等学校総合体育大会の影響もあり、21位と大きく躍進したが、ここ3年間は低迷を続けている（同平均42位）。



② 天皇杯得点1位都県、2位都県及び本県の競技得点等の推移



● 過去10年間における競技得点の平均

(単位：点)

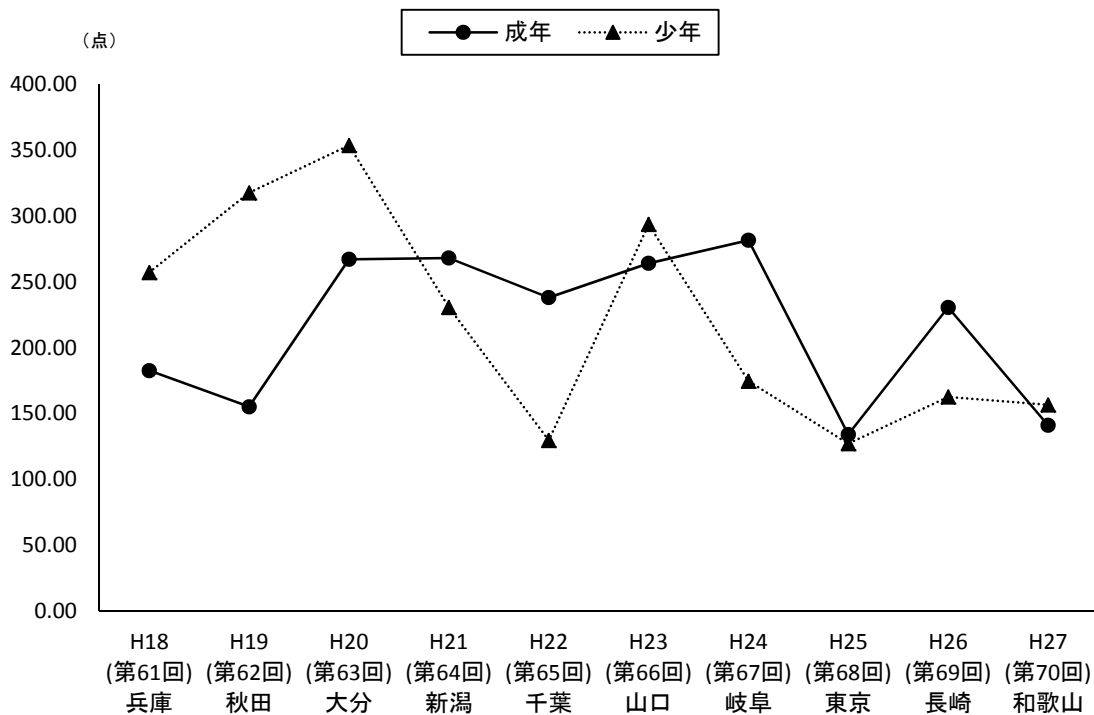
◇ 天皇杯得点1位都県	2294.25	(最高 3086.00)
◇ 天皇杯得点2位都県	1624.05	(最高 1771.50)
◇ 佐賀県	436.35	(最高 620.50)

佐賀国体において1位を獲得するためには、最低でも1,800点以上、安全圏として2,200点以上の競技得点が必要となる。これは、1都道府県が獲得可能な最大の競技得点(P9参照)の約3割にあたる。

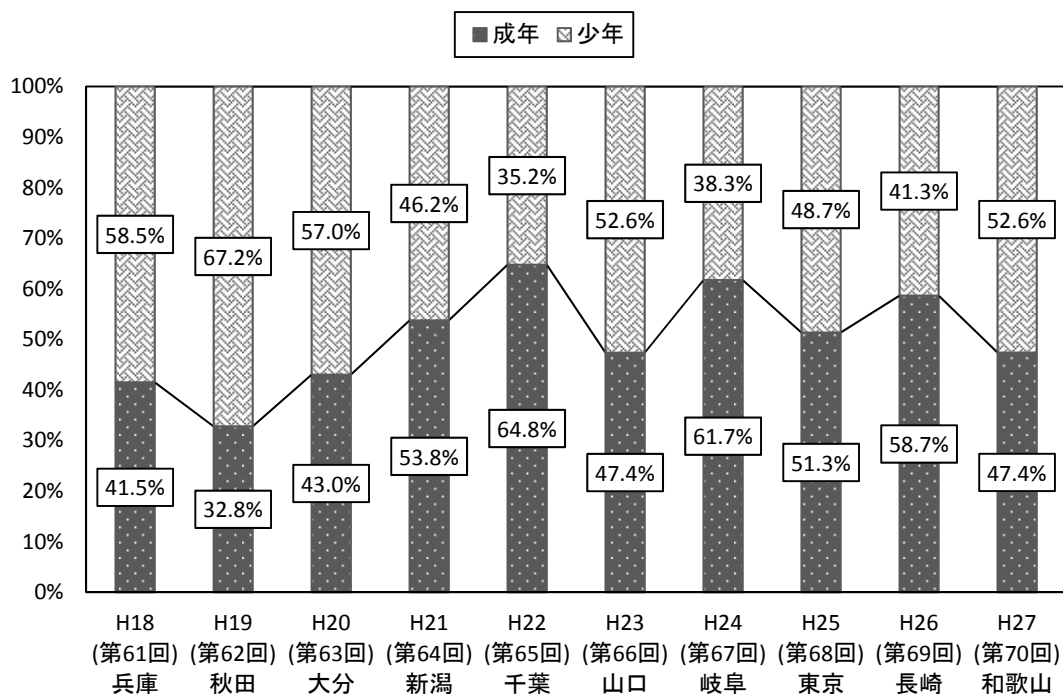
ただし、平成26年度第1回国民体育大会委員会において策定された「国民体育大会における2020年オリンピック対策・実行計画」に基づき、平成28年の岩手国体以降、水泳競技のオープンウォータースイミング(男子・女子)やラグビーフットボール7人制(女子)等、新たな種目・種別が順次追加導入されることから、目標とする競技得点を上方修正する必要がある。

### ③ 本県の成年・少年別競技得点の推移と比率

〔 推移 〕



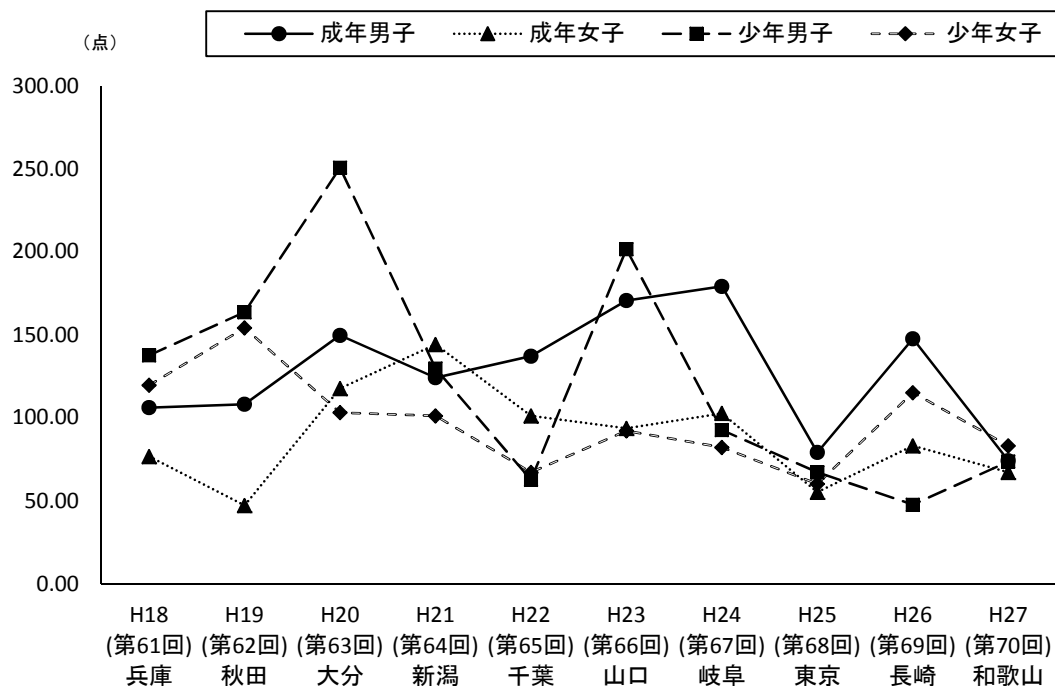
〔 比率 〕



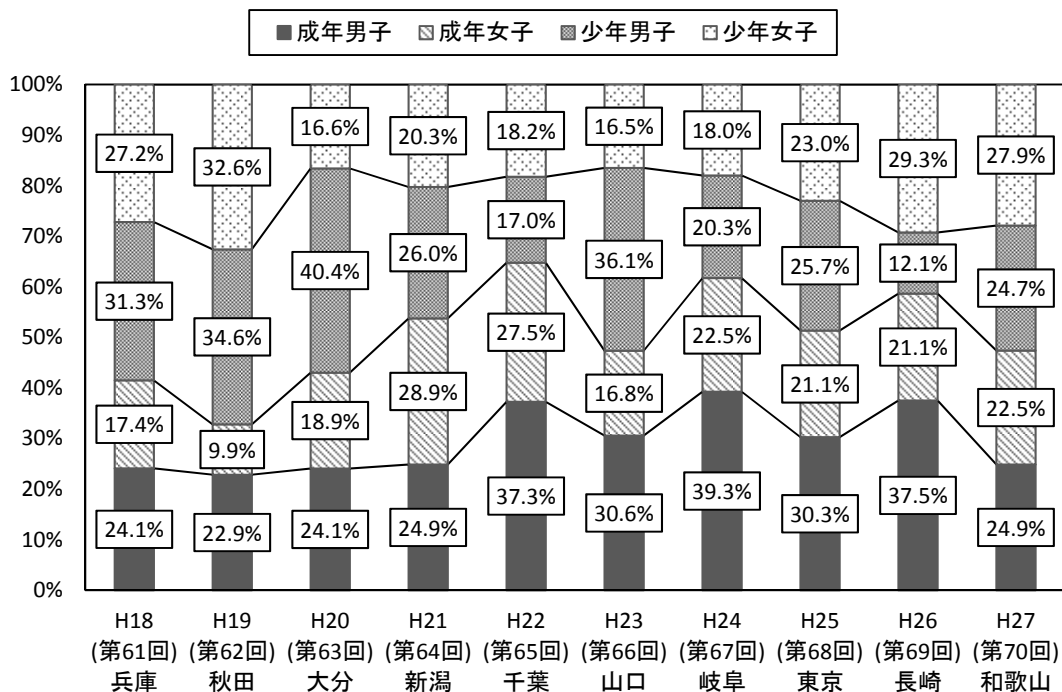
平成 20 年の大分国体を境に、成年種別の競技得点比率が高まっている。なお、過去 5 大会で天皇杯を獲得した都県における成年種別と少年種別の競技得点比率は、平均で 59.1% 対 40.9% となっており、人口の少ない地方ほど、成年種別の競技得点比率が高い傾向にある。

④ 本県の成年／少年・男女別競技得点の推移と比率

〔 推移 〕



〔 比率 〕

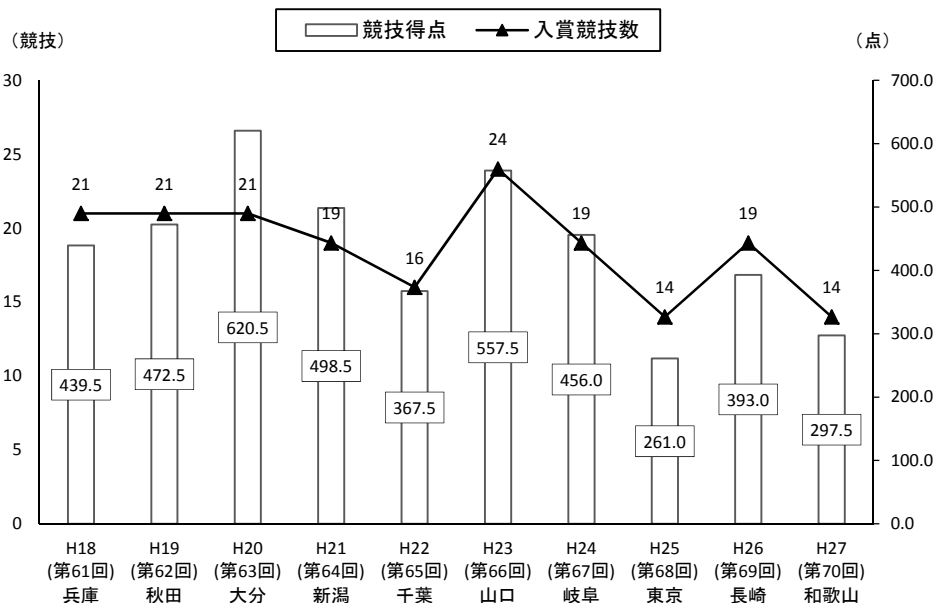


本県の得点源であった新体操男子が平成20年の大分国体を最後に開催種目から外れたことなども影響し、少年男子の落ち込みが目立つ。

◇ 得点差 (最高時-H27)

成年男子 105    少年男子 177    成年女子 75    少年女子 71

⑤ 本県の入賞競技数と競技得点の相関



〈 入賞競技数の内訳 (得点順) 〉

(単位:点)

	H18(第61回)兵庫	H19(第62回)秋田	H20(第63回)大分	H21(第64回)新潟	H22(第65回)千葉
体操	64.0	76.0	79.0	114.0	76.0
セリツグ	48.0	アーチェリー	61.0	セリツグ	ハレーホ-ル
ライフル射撃	39.0	ソフトホ-ル	54.0	体操	体操
アーチェリー	39.0	セリツグ	48.0	ライフル射撃	ハードホ-ル
山岳	30.0	剣道	45.5	ハードホ-ル	テニス
ハードホ-ル	25.0	ハレーホ-ル	44.0	レスリツグ	ライフル射撃
テニス	24.0	軟式野球	36.0	ホ-ト	軟式野球
レスリツグ	21.5	ソフトホ-ル	36.0	馬術	陸上
なぎなた	21.0	なぎなた	32.0	ホクツツグ	水泳
スキー	18.0	レスリツグ	30.0	アーチェリー	レスリツグ
ソフトテニス	15.0	テニス	27.0	水泳	ホクツツグ
陸上	13.5	ライフル射撃	27.0	スキー	ホ-ト
ホクツツグ	13.0	ホクツツグ	16.0	ソフトテニス	アーチェリー
剣道	12.5	陸上	15.0	ウエトリフティング	スキー
水泳	12.0	水泳	14.0	陸上	山岳
ホ-ト	12.0	ホクツツグ	13.0	軟式野球	ウエトリフティング
弓道	9.0	スキー	12.5	山岳	
ウエトリフティング	8.0	ホ-ト	10.5	なぎなた	
加-	7.0	山岳	8.0	加-	
ホクツツグ	6.0	ウエトリフティング	8.0		
自転車	2.0	加-	4.0		

	H23(第66回)山口	H24(第67回)岐阜	H25(第68回)東京	H26(第69回)長崎	H27(第70回)和歌山
ラグビーフットホ-ル	84.0	セリツグ	セリツグ	セリツグ	セリツグ
セリツグ	58.0	軟式野球	72.0	77.0	70.0
体操	50.0	ハレーホ-ル	48.0	42.5	ホ-ト
ハードホ-ル	40.0	山岳	35.0	40.0	山岳
ホッケー	40.0	体操	21.0	35.0	レスリツグ
ハレーホ-ル	35.0	体操	20.0	25.0	ホッケー
アーチェリー	27.0	陸上	19.0	なぎなた	20.0
陸上	25.0	山岳	12.0	19.0	体操
ホ-ト	21.0	レスリツグ	9.5	16.0	なぎなた
山岳	21.0	ウエトリフティング	7.0	15.0	15.0
弓道	21.0	サッカー	7.0	16.0	陸上
剣道	20.0	20.0	7.0	15.0	14.0
水泳	19.0	自転車	7.0	15.0	14.0
レスリツグ	18.5	スキー	7.0	15.0	14.0
柔道	12.5	ウエトリフティング	3.0	12.5	14.0
ライフル射撃	10.0	10.0	2.5	12.0	14.0
自転車	10.0	ライフル射撃	2.0	12.0	14.0
なぎなた	9.0	ホ-ト	2.0	12.0	14.0
馬術	8.0	水泳	2.0	12.0	14.0
ホクツツグ	8.0	剣道	2.0	12.0	14.0
スキー	7.0	8.0	2.0	12.0	14.0
加-	7.0	7.5	2.0	12.0	14.0
ウエトリフティング	4.0	7.0	2.0	12.0	14.0
空手道	2.5	5.5	2.0	12.0	14.0

個人種目と団体種目で得点配分が異なるため、入賞競技数が同数であっても、競技得点には大きな開きが見られる。なお、H27(第70回)国民体育大会において天皇杯を獲得した和歌山県の入賞競技数は35競技。

## ⑥ 本県の競技得点によるランキング

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
1	セリツグ	73.8	5	58.0	92.0	72.0	77.0	70.0
2	ラグビーフットボール	34.4	3	84.0		48.0	40.0	
3	バレーボール	29.0	4	35.0	40.0	35.0	35.0	
4	体操	27.0	5	50.0	35.0	20.0	15.0	15.0
5	山岳	23.4	4	21.0	39.0	12.0		45.0
6	ボート	20.4	4	21.0	10.0		25.0	46.0
6	陸上競技	20.4	5	25.0	25.0	19.0	19.0	14.0
8	レスリング	16.7	5	18.5	17.0	9.5	14.0	24.5
9	ハンドボール	16.5	3	40.0	30.0		12.5	
10	剣道	14.0	3	20.0	7.5		42.5	
11	なぎなた	13.8	4	9.0	21.0		24.0	15.0
12	ホッケー	12.0	2	40.0				20.0
13	水泳	11.2	5	19.0	8.0	7.0	12.0	10.0
14	軟式野球	9.6	1		48.0			
15	自転車	9.0	5	10.0	7.0	7.0	8.0	13.0

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
16	アーチェリー	7.8	2	27.0				12.0
17	グレトリフィング	7.6	5	4.0	21.0	3.0	3.0	7.0
18	ライフル射撃	7.2	4	10.0	10.0	2.0		14.0
19	馬術	6.8	4	8.0		21.0	4.0	1.0
20	ボクシング	6.4	4	8.0	5.5	2.5	16.0	
21	加-	5.8	3	7.0	15.0			7.0
22	弓道	4.2	1	21.0				
23	サッカー	4.0	1		20.0			
24	スキー	3.0	3	7.0	5.0	3.0		
24	銃剣道	3.0	1				15.0	
26	柔道	2.5	1	12.5				
27	フェンシング	2.4	1				12.0	
28	テニス	0.6	1					3.0
29	空手道	0.5	1	2.5				

※ 未入賞競技：11競技

### 〈 種別毎ランキング 〉

#### 〔 成年男子（開催競技数：39） 〕

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
1	山岳	21.0	4	21.0	39.0	12.0		33.0
2	セリツグ	19.2	5	16.0	22.0	8.0	32.0	18.0
3	ラグビーフットボール	17.6	3	28.0		20.0	40.0	
4	ハンドボール	16.5	3	40.0	30.0		12.5	
5	軟式野球	9.6	1		48.0			
6	レスリング	8.0	5	18.5	7.5	2.5	4.5	7.0
7	ボクシング	6.4	4	8.0	5.5	2.5	16.0	
8	自転車	4.4	3			7.0	8.0	7.0
9	弓道	4.2	1	21.0				
10	陸上	3.8	4		7.0	4.0	5.0	3.0
10	ライフル射撃	3.8	3	7.0	10.0	2.0		
12	アーチェリー	3.0	1	15.0				
12	銃剣道	3.0	1				15.0	
14	水泳	2.8	3	2.0	5.0	7.0		
15	柔道	2.5	1	12.5				
15	剣道	2.5	1				12.5	
17	グレトリフィング	1.6	3			3.0	2.0	3.0
17	馬術	1.6	1			8.0		
17	スキー	1.6	2		5.0	3.0		
20	テニス	0.6	1					3.0

#### 〔 少年男子（開催競技数：37） 〕

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
1	セリツグ	21.8	5	13.0	32.0	29.0	17.0	18.0
2	ラグビーフットボール	16.8	2	56.0		28.0		
3	レスリング	8.7	4		9.5	7.0	9.5	17.5
4	ホッケー	8.0	1	40.0				
5	水泳	6.8	3	17.0			8.0	9.0
6	グレトリフィング	6.0	4	4.0	21.0		1.0	4.0
7	陸上	5.2	4	17.0	3.0	3.0		3.0
8	自転車	4.6	3	10.0	7.0			6.0
9	サッカー	4.0	1		20.0			
10	剣道	2.5	1	12.5				
11	アーチェリー	2.4	1				12.0	
12	ライフル射撃	2.0	2	3.0				7.0
13	山岳	1.8	1					9.0
14	馬術	1.0	1	5.0				
15	空手道	0.5	1	2.5				

#### 〔 成年女子（開催競技数：30） 〕

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
1	バレーボール	29.0	4	35.0	40.0	35.0	35.0	
2	ボート	12.0	3		10.0		25.0	25.0
3	陸上	11.2	5	8.0	15.0	11.0	14.0	8.0
4	セリツグ	8.8	4	21.0	9.0	4.0		10.0
5	体操	7.0	3	15.0			5.0	15.0
6	なぎなた	4.2	1		21			
7	剣道	3.0	2	7.5	7.5			
8	ライフル射撃	1.4	1					7.0
8	スキー	1.4	1	7.0				
10	馬術	1.2	2			5.0		1.0
11	水泳	1.0	2				4.0	1.0

#### 〔 少年女子（開催競技数：30） 〕

順位	競技名	過去5大会		H23 (66回) 山口	H24 (67回) 岐阜	H25 (68回) 東京	H26 (69回) 長崎	H27 (70回) 和歌山
		得点 平均	入賞 回数					
1	セリツグ	24.0	5	8.0	29.0	31.0	28.0	24.0
2	体操	20.0	4	35.0	35.0	20.0	10.0	
3	なぎなた	9.6	3	9			24	15
4	ボート	8.4	2	21.0				21.0
5	剣道	6.0	1				30.0	
6	加-	5.8	3	7.0	15.0		7.0	
7	ホッケー	4.0	1					20.0
8	馬術	3.0	3	3.0		8.0	4.0	
9	フェンシング	2.4	1				12.0	
9	アーチェリー	2.4	1	12.0				
11	山岳	0.6	1					3.0
11	水泳	0.6	1		3.0			
13	陸上	0.2	1			1.0		

セーリング競技や体操競技等、5年連続で入賞を果たしている競技が7競技ある一方、未入賞競技が11競技あり、二極化の様相を呈している。また、同競技内においても、種別によって競技力に差がある。

⑦ 獲得可能な最大の競技得点に対する本県の競技得点

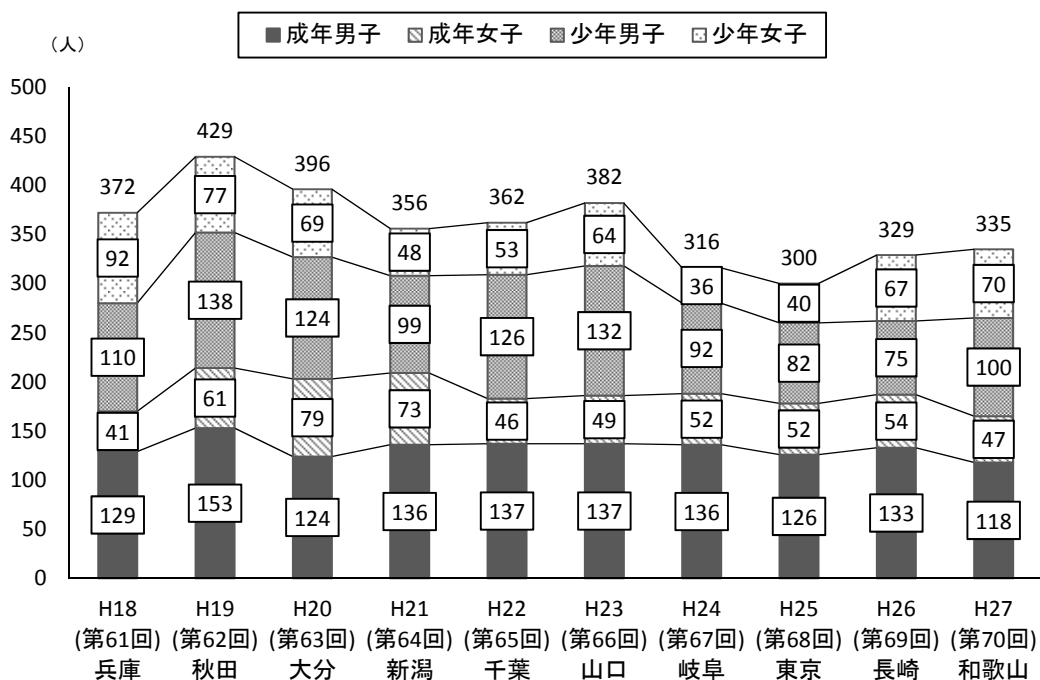
高得点順	競技名	獲得可能最大得点	過去5大会（佐賀県）				〔参考〕1位獲得県			
			平均		各最高時		H26 (第69回) 長崎県		H27 (第70回) 和歌山県	
			得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合
1	水泳	552	11.2	2.0%	19.0	3.4%	10.0	1.8%	71.0	12.9%
2	スケート	519							36.0	6.9%
3	スキー	504	3.0	0.6%	7.0	1.4%				
4	陸上	440	20.4	4.6%	25.0	5.7%	49.0	11.1%	55.0	12.5%
5	加工	352	5.8	1.6%	15.0	4.3%	129.0	36.6%	100.0	28.4%
6	ボート	288	20.4	7.1%	46.0	16.0%	59.0	20.5%	71.0	24.7%
7	ボウリング	268					75.0	28.0%	37.0	13.8%
8	ホッケー	256	12.0	4.7%	40.0	15.6%	136.0	53.1%	164.0	64.1%
8	ソフトボール	256					108.0	42.2%	40.0	15.6%
10	サッカー	192	4.0	2.1%	20.0	10.4%	68.0	35.4%	48.0	25.0%
10	弓道	192	4.2	2.2%	21.0	10.9%	21.0	10.9%	15.0	7.8%
10	山岳	192	23.4	12.2%	45.0	23.4%	48.0	25.0%	12.0	6.3%
13	馬術	184	6.8	3.7%	21.0	11.4%	49.0	26.6%	59.5	32.3%
14	ライフル射撃	168	7.2	4.3%	14.0	8.3%	42.0	25.0%	24.0	14.3%
15	バレーボール	160	29.0	18.1%	40.0	25.0%	70.0	43.8%		
15	バドミントン	160					12.5	7.8%	12.5	7.8%
15	ハンドボール	160	16.5	10.3%	40.0	25.0%	25.0	15.6%	25.0	15.6%
15	ソフトテニス	160					35.0	21.9%	80.0	50.0%
19	自転車	150	9.0	6.0%	13.0	8.7%	28.0	18.7%	92.0	61.3%
20	セーリング	144	73.8	51.3%	92.0	63.9%	39.0	27.1%	111.0	77.1%
20	フェンシング	144	2.4	1.7%	12.0	8.3%	42.0	29.2%	60.0	41.7%
20	剣道	144	14.0	9.7%	42.5	29.5%	144.0	100.0%	134.0	93.1%
23	体操	136	27.0	19.9%	50.0	36.8%	97.5	71.7%	90.0	66.2%
24	柔道	128	2.5	2.0%	12.5	9.8%	65.5	51.2%	60.5	47.3%
24	ラグビーフットボール	128	34.4	26.9%	84.0	65.6%	48.0	37.5%	30.0	23.4%
26	空手道	120	0.5	0.4%	2.5	2.1%	104.5	87.1%	84.0	70.0%
27	グレコローマン	112	7.6	6.8%	21.0	18.8%	80.0	71.4%	55.0	49.1%
28	レスリング	104	16.7	16.1%	24.5	23.6%	39.0	37.5%	56.5	54.3%
29	テニス	96	0.6	0.6%	3.0	3.1%			24.0	25.0%
29	卓球	96					39.0	40.6%	7.5	7.8%
29	バドミントン	96					7.5	7.8%		
29	アーチェリー	96	7.8	8.1%	27.0	28.1%	51.0	53.1%	39.0	40.6%
29	なぎなた	96	13.8	14.4%	24.0	25.0%	66.0	68.8%	90.0	93.8%
34	ボクシング	80	6.4	8.0%	16.0	20.0%	36.0	45.0%	37.5	46.9%
34	アイスホッケー	80								
36	ゴルフ	72					22.5	31.3%	6.0	8.3%
37	軟式野球	64	9.6	15.0%	48.0	75.0%	40.0	62.5%		
37	相撲	64					24.0	37.5%	15.0	23.4%
39	銃剣道	48	3.0	6.3%	15.0	31.3%	33.0	68.8%	6.0	12.5%
39	フル射撃	48					21.0	43.8%	9.0	18.8%
合計		7,249	393	5.4%	840	11.6%	1964.0	27.1%	1857.0	25.6%

※ 平成 28 年（第 71 回）国民体育大会（岩手国体）では、銃剣道競技の代わりにトライアスロン競技が正式競技となる。以降、平成 30 年（第 73 回）国民体育大会（福井国体）まで隔年で入れ替わる。

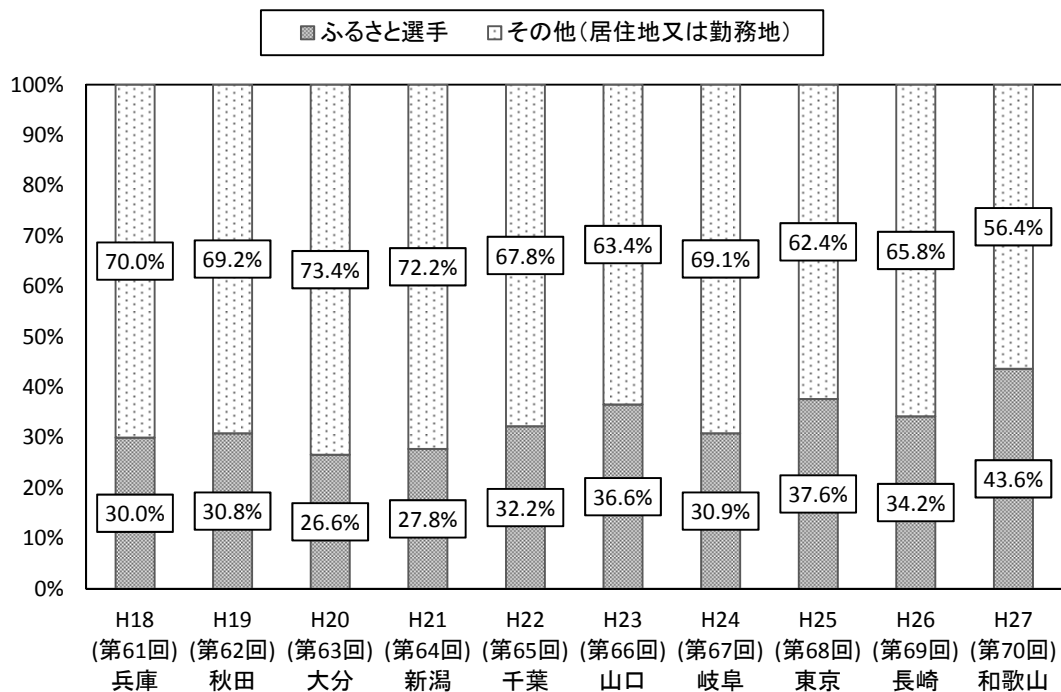
過去 5 会の平均では獲得可能な最大の競技得点の 5.4%だが、それぞれの競技における最高成績が仮に単年度に重なったと想定した場合、11.6%となり、競技得点 840 点は天皇杯得点 10 位台前半に相当する。

⑧ 本県の参加選手数の推移と成年種別における「ふるさと選手」の比率

〔参加選手数〕



〔ふるさと選手〕

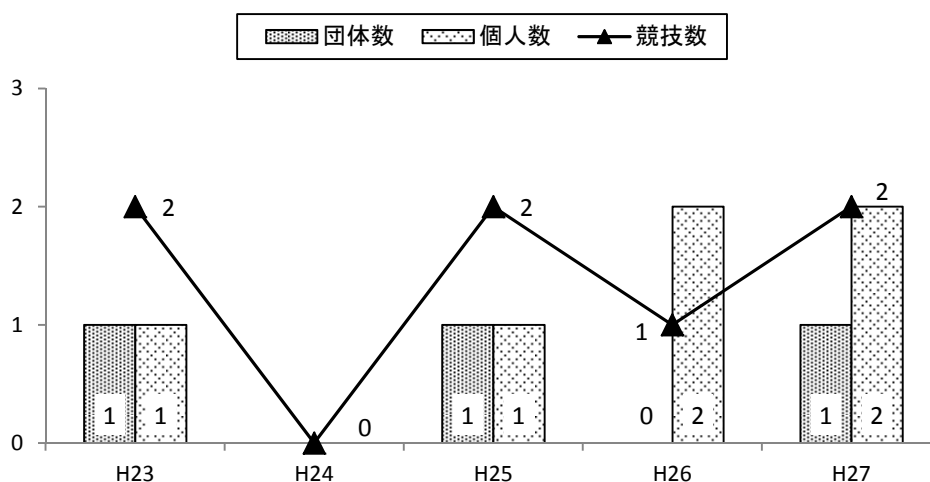


ふるさと選手制度(※)を活用して国体に参加する、いわゆる「ふるさと選手」は、大学や実業団の数が少ない都道府県において大きな存在となる。

※ 成年種別に参加する選手が、居住地又は勤務地に関わらず、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県から参加できる制度。

(2) 全国中学校体育大会の成績

◇ 入賞数（3位以内）

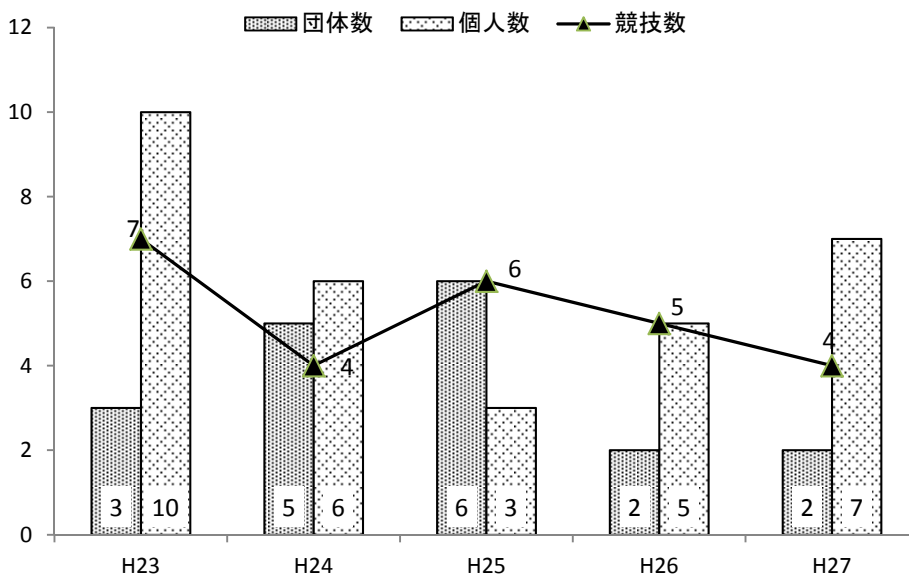


入賞競技数の内訳

H23 軟式野球、体操（競技）  
 H25 剣道、水泳  
 H26 柔道  
 H27 柔道、剣道

(3) 全国高等学校総合体育大会及び全国高等学校選抜大会の成績

① 全国高等学校総合体育大会の入賞数（3位以内）

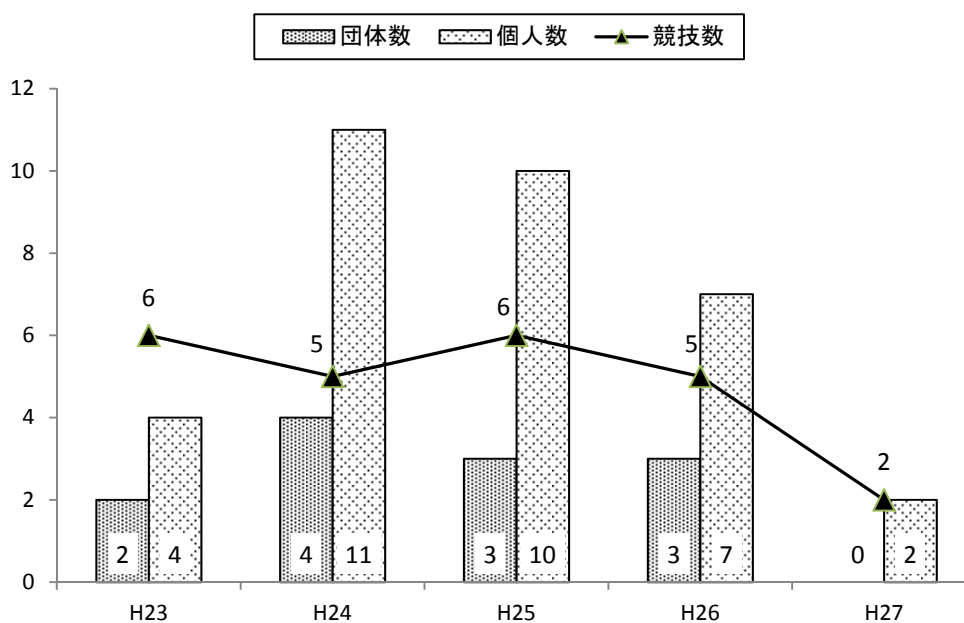


入賞競技数の内訳

H23 体操（新体操）、セリツグ、ソフトボール、レスリング、柔道、陸上、アーチェリー  
 H24 体操（新体操、競技）、セリツグ、加-、ウエイトリフティング  
 H25 体操（新体操）、セリツグ、レスリング、なぎなた、水泳（飛込）、フットボール  
 H26 レスリング、なぎなた、水泳、加-、卓球  
 H27 体操（新体操、競技）、レスリング、柔道、水泳（飛込）



② 全国高等学校選抜大会の入賞数（3位以内）



入賞競技数の内訳

- H23 体操（新体操）、ソフトボール、柔道、ライフル射撃、ウエトリフティング、自転車
- H24 体操（新体操、競技）、なぎなた、レスリング、弓道、少林寺拳法（※）
- H25 体操（新体操、競技）、なぎなた、レスリング、弓道、ウエトリフティング、ラグビーフットボール
- H26 体操（新体操、競技）、なぎなた、レスリング、アーチェリー、ホッケー
- H27 柔道、バドミントン

※ 国民体育大会未実施競技

（4）国際大会の成績

◇ 佐賀県ゆかりのスポーツ選手の活躍

（敬称略）

年度	氏名	競技	所属（当時）	大会名	成績等
H25	川口 達磨	相撲	唐津青翔高校（教）	ワールドゲームズ	優勝
	日高 郁弥	水泳（競泳）	中京大学	ユニバーシアード競技大会	3位
	岡本 佳子	レスリング	鳥栖工業高校	アジアカデット選手権	優勝
	龍 和貴子	体操（競技）	鳥栖高校	アジア国際	3位
H26	嘉村 健士	バドミントン	けみ運輸（株）	世界バドミントン選手権大会	優勝
	久光製薬スプリングス	バレーボール	久光製薬（株）	アジアクラブ女子選手権大会	優勝
	川内 将嗣	ホッケー	自衛隊体育学校	アジア競技大会	3位
H27	有吉 佐織	サッカー	日テレ・ベレーザ	FIFA女子ワールドカップ	2位
	堤 ほの花	ラグビーフットボール	佐賀工業高校	アジアラグビーチャンピオンシップ	優勝
	五郎丸 歩	ホッケー	ヤマハ発動機	ラグビーワールドカップ	ベストフIFティーン選出

※ 国民体育大会未実施競技は含まず

## 2 佐賀県の競技スポーツを取り巻く環境

### (1) 本県の競技人口（登録人数）

■ は登録制度なし

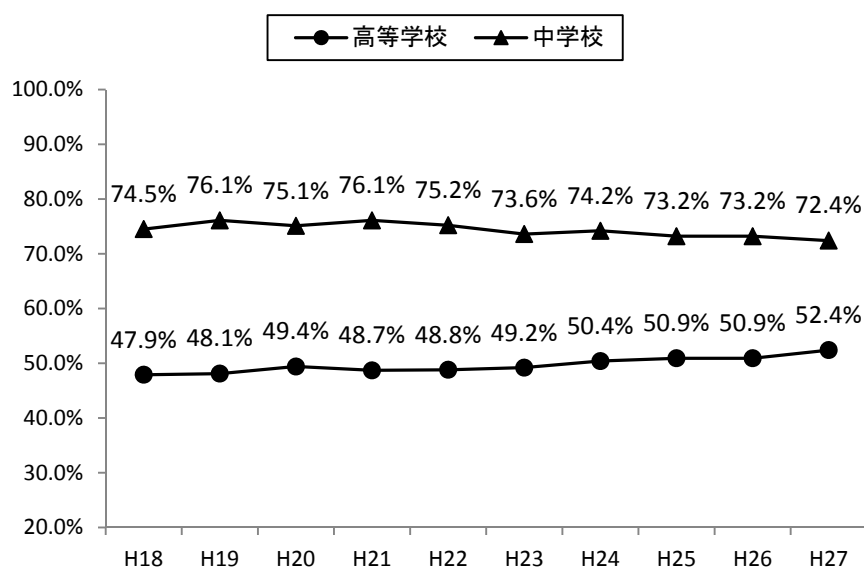
(単位:人)

No.	競技(種目)名	小学生			中学生			高校生			大学生・一般			合計		
		H26	H27	増減	H26	H27	増減	H26	H27	増減	H26	H27	増減	H26	H27	増減
1	陸上				1,787	1,734	▲53	1,255	1,238	▲17	796	815	19	3,838	3,787	▲51
2	水泳(競泳)	520	480	▲40	115	150	35	186	180	▲6	42	40	▲2	863	850	▲13
	水泳(飛込)	1	9	8	4	3	▲1	2	2	0	1	1	0	8	15	7
	水泳(水球)	4	14	10	6	6	0	22	21	▲1	0	0	0	32	41	9
3	サッカー	2,558	2,399	▲159	2,710	2,581	▲129	1,706	1,720	14	3,015	2,706	▲309	9,989	9,406	▲583
4	テニス	65	100	35	581	644	63	614	613	▲1	409	397	▲12	1,669	1,754	85
5	ボート	0	0	0	11	17	6	22	28	6	59	43	▲16	92	88	▲4
6	ホッケー	15	14	▲1	12	9	▲3	34	36	2	29	31	2	90	90	0
7	ホッケー	0	0	0	13	7	▲6	28	29	1	4	5	1	45	41	▲4
8	バレーボール	756	773	17	1,661	1,650	▲11	1,040	1,036	▲4	587	573	▲14	4,044	4,032	▲12
9	体操(競技)	30	40	10	22	18	▲4	15	12	▲3	12	15	3	79	85	6
	体操(新体操)	18	35	17	135	98	▲37	53	61	8	0	0	0	206	194	▲12
10	バスケットボール	794	718	▲76	2,140	1,797	▲343	1,629	1,667	38	439	442	3	5,002	4,624	▲378
11	レスリング	44	20	▲24	2	2	0	31	30	▲1	10	6	▲4	87	58	▲29
12	セーリング	7	7	0	7	4	▲3	25	15	▲10	55	40	▲15	94	66	▲28
13	ウエイトリフティング	0	0	0	0	0	0	25	15	▲10	27	10	▲17	52	25	▲27
14	ハンドボール	20	20	0	86	85	▲1	243	240	▲3	104	105	1	453	450	▲3
15	自転車	0	5	5	4	4	0	9	10	1	11	4	▲7	24	23	▲1
16	ソフトテニス	301	332	31	3,116	3,074	▲42	861	904	43	599	571	▲28	4,877	4,881	4
17	卓球	127	109	▲18	2,046	1,999	▲47	766	741	▲25	449	480	31	3,388	3,329	▲59
18	軟式野球	2,306	2,190	▲116	1,418	1,273	▲145	0	0	0	4,698	4,722	24	8,422	8,185	▲237
19	相撲	300	280	▲20	30	30	0	10	10	0	80	80	0	420	400	▲20
20	馬術	8	7	▲1	2	6	4	5	2	▲3	33	33	0	48	48	0
21	フィギュア	0	6	6	0	0	0	11	11	0	12	15	3	23	32	9
22	柔道	471	449	▲22	344	337	▲7	233	226	▲7	505	551	46	1,553	1,563	10
23	ソフトボール	16	14	▲2	472	404	▲68	208	164	▲44	1,182	1,119	▲63	1,878	1,701	▲177
24	バドミントン	320	278	▲42	359	370	11	654	696	42	924	906	▲18	2,257	2,250	▲7
25	弓道	7	3	▲4	110	129	19	606	660	54	355	371	16	1,078	1,163	85
26	ライフル射撃	0	1	1	3	1	▲2	6	5	▲1	60	57	▲3	69	64	▲5
27	剣道	988	989	1	960	930	▲30	568	572	4	1,822	1,822	0	4,338	4,313	▲25
28	ラグビーフットボール	153	170	17	38	45	7	149	172	23	169	179	10	509	566	57
29	山岳	4	3	▲1	7	7	0	64	59	▲5	4	3	▲1	79	72	▲7
30	加-(S/W・SP)	1	0	▲1	3	8	5	65	52	▲13	33	35	2	102	95	▲7
31	アーチェリー	0	6	6	0	1	1	38	38	0	31	12	▲19	69	57	▲12
32	空手道	135	220	85	98	92	▲6	106	94	▲12	111	138	27	450	544	94
33	銃剣道	1	1	0	3	2	▲1	12	2	▲10	40	39	▲1	56	44	▲12
34	クレー射撃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	28	1	27	28	1
35	なぎなた	10	16	6	6	8	2	40	36	▲4	34	45	11	90	105	15
36	ホッケー	4	4	0	7	3	▲4	8	7	▲1	57	60	3	76	74	▲2
37	丁羽	50	100	50	40	100	60	40	50	10				130	250	120
38	将棋	5	11	6	7	5	▲2	7	10	3	254	234	▲20	273	260	▲13
39	アイスホッケー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	45	0	45	45	0
40	スケート	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	5	5
41	トライアスロン	2	0	▲2	0	0	0	0	0	0	103	105	2	105	105	0
合計		10,041	9,825	▲216	18,365	17,635	▲730	11,396	11,465	69	17,227	16,883	▲344	57,029	55,808	▲1,221

サッカーや軟式野球等、十分な競技人口を確保できている団体がある一方、競技人口が100人に満たない団体も多い。

(公財) 佐賀県体育協会  
加盟団体調書より

## (2) 運動部活動の加入状況 (加入率の推移)

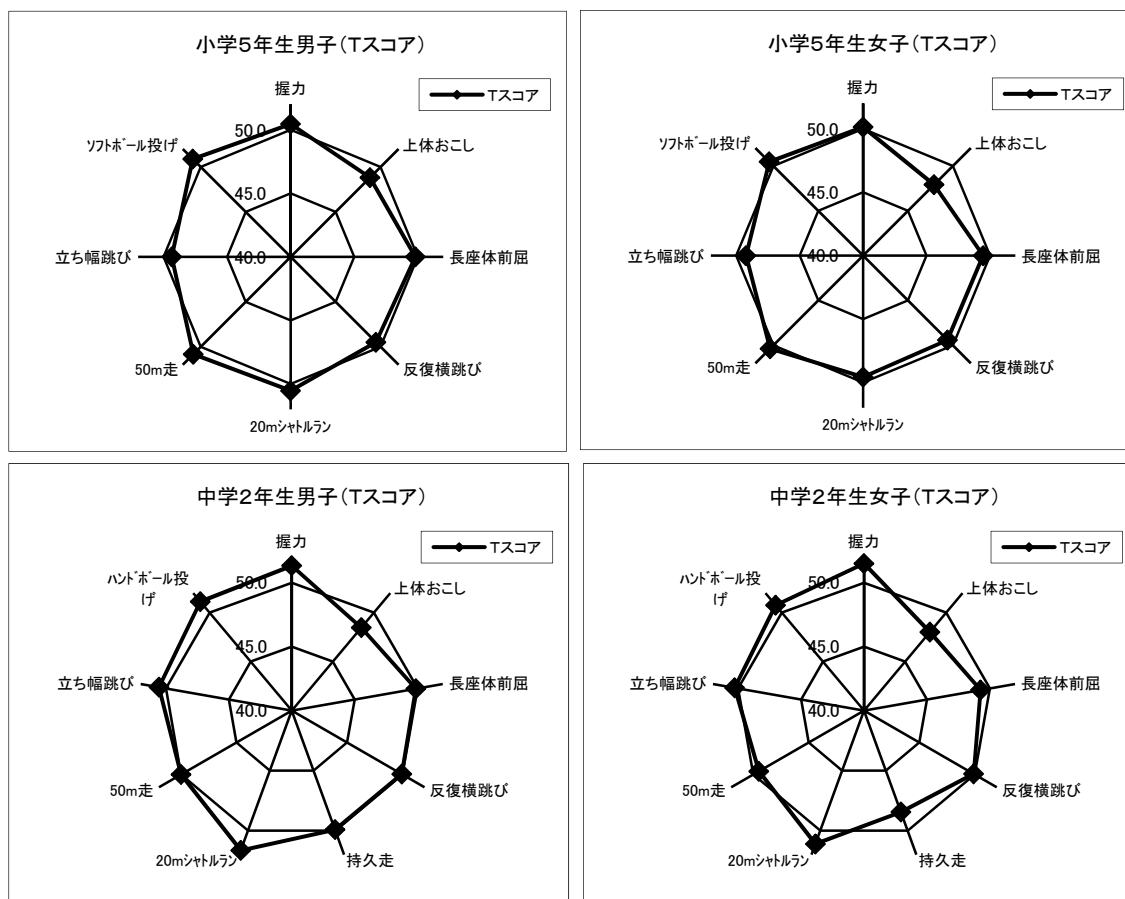


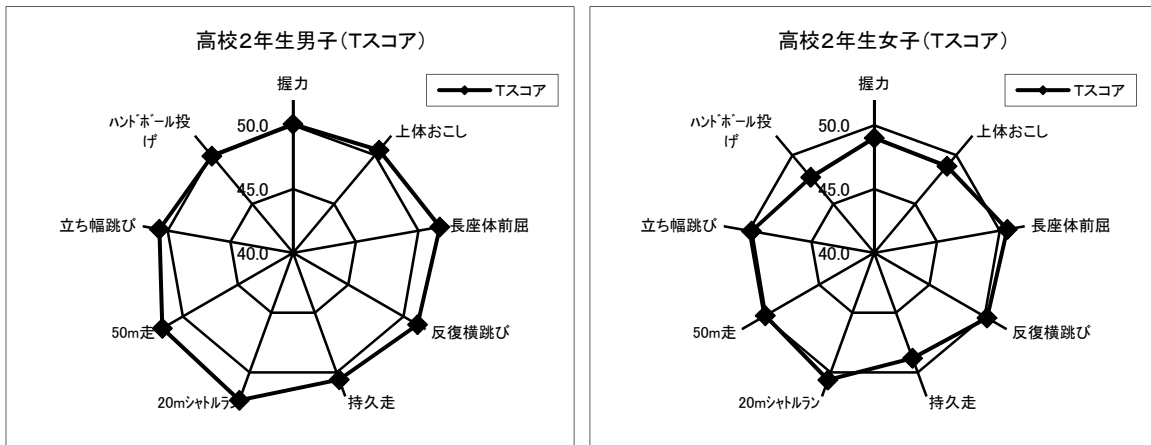
中学校においては過去10ヶ年にわたって高い水準を維持している。高等学校進学時に運動部活動から離れる生徒が多いが、改善の兆しが見られる。

## (3) 体力・運動能力調査の結果

### ◇ 全国平均値と比較した際の佐賀県児童生徒のスコア

※ Tスコア：全国平均値を50とした場合の佐賀県平均値の偏差値





〔小学5年生・中学2年生のデータは『平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査』（平成27年12月 スポーツ庁）、高校2年生のデータは『平成27年度佐賀県子供の体力・運動調査報告書』（平成28年3月 佐賀県教育委員会）より〕

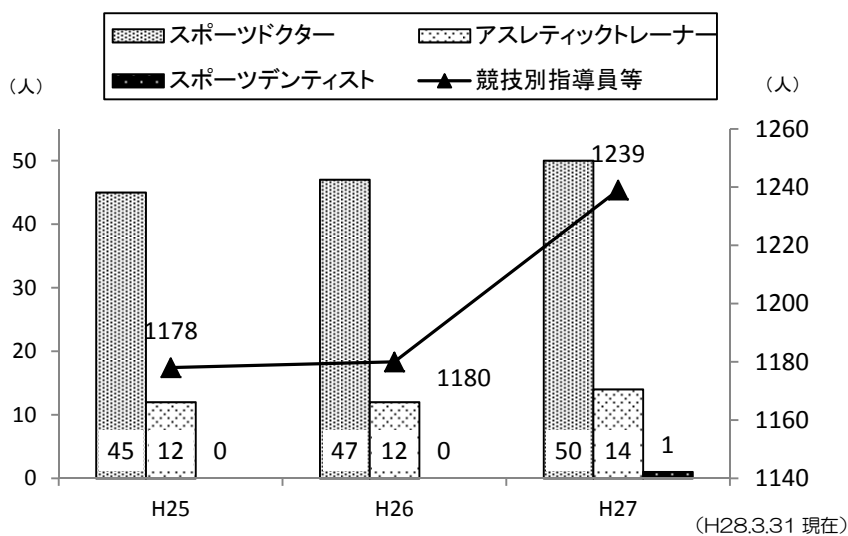
「上体おこし」を除き、全校種において概ね全国平均値と同水準か、種目によってはやや上回っている。高校2年生の男子については全体的に高い水準を示し、バランスの良さが見て取れる。なお、平成27年度の本県の記録は、男子は中高の全学年で反復横跳びが過去最高となるなど、8学年14種目で最高値を記録し、女子も反復横跳びや長座体前屈等が伸び、男子を上回る9学年23種目で過去最高となった。

(4) 企業スポーツの活動状況

企業・チーム名	主な活動内容等
久光製薬株式会社 ◇ 久光製薬スプリングス	(1) 平成25年度 2013/14 V・プレミアリーグ女子 優勝 平成26年度 2014/15 V・プレミアリーグ女子 準優勝 平成27年度 2015/16 V・プレミアリーグ女子 優勝 (2) 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 優勝 (4年連続5回目) (3) 平成26年度 2014 アジアカラブ女子選手権大会 優勝 平成27年度 2015 アジアカラブ女子選手権大会 準優勝 (4) 平成25年度 第68回国民体育大会 準優勝 平成26年度 第69回国民体育大会 準優勝
株式会社サガン・ドリームス ◇ サガン鳥栖	(1) 平成25年度 2013 Jリーグ 12位 天皇杯全日本サッカー選手権大会 ベスト4 (2) 平成26年度 2014 Jリーグ 5位 天皇杯全日本サッカー選手権大会 ベスト16 (3) 平成27年度 2015 Jリーグ 11位 天皇杯全日本サッカー選手権大会 ベスト8

企業・チーム名	主な活動内容等
<p>トヨタ紡織九州株式会社            ◇ レッドトルネード</p>	<p>(1) 平成25年度 第38回日本ハンドボールリーグ 7位            平成26年度 第39回日本ハンドボールリーグ 8位            平成27年度 第40回日本ハンドボールリーグ 8位            (2) 平成25年度～平成27年度            全日本総合ハンドボール選手権大会 ベスト8            (3) 平成25年度 第68回国民体育大会 2回戦敗退            平成26年度 第69回国民体育大会 5位            平成27年度 第70回国民体育大会 2回戦敗退</p>
<p>大和産業株式会社            ◇ ダイワアクト</p>	<p>(1) 平成25年度 日本男子ソフトボール西日本リーグ 2位            日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント            優勝(2年ぶり3回目)            平成26年度 日本男子ソフトボール西日本リーグ 7位            平成27年度 日本男子ソフトボール西日本リーグ 2位            日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント            3位            (2) 平成25年度 第59回全日本総合男子選手権大会 出場            平成26年度 第60回全日本総合男子選手権大会 ベスト8</p>
<p>株式会社まいづる百貨店            ◇ ボート部</p>	<p>(1) 平成27年度 第70回国民体育大会 舵手付きクオドルブル            4位            (2) 平成27年度 第8回ウィンターズカップ選手権大会            舵手付きクオドルブル 2位</p>
<p>医療法人ひらまつ病院            ◇ 野球部</p>	<p>(1) 平成25年度 第36回九州連合会長杯軟式野球選手権大会 出場            平成26年度 第37回九州連合会長杯軟式野球選手権大会 3位            平成27年度 第38回九州連合会長杯軟式野球選手権大会 優勝            (2) 平成26年度 第18回西日本軟式野球選手権大会 出場            平成27年度 第19回西日本軟式野球選手権大会 出場            (3) 平成26年度 第69回国民体育大会 2回戦敗退            平成27年度 第70回国民体育大会 出場</p>
<p>株式会社戸上電機製作所            ◇ バレーボール部            ◇ 野球部 ◇ 陸上部</p>	<p>地域との関わりを大切に日々活動に励まれ、平成27年3月にはその活動が高く評価され「佐賀県スポーツ功労賞功労団体賞」を受賞された。</p>

(5) 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者資格の取得状況



競技別指導員等の内訳 (H27)

■ は資格制度なし

(単位: 人)

No.	競技名	指導員			コーチ			教師			合計
		指導員	上級	小計	コーチ	上級	小計	教師	上級	小計	
1	陸上	11	1	12	5	2	7			0	19
2	水泳	25	4	29	11	0	11	4	2	6	46
3	サッカー	266		266	44	19	63			0	329
4	テニス	14	6	20	7	1	8	1	0	1	29
5	ボート	5		5	1	0	1			0	6
6	ホッケー	2	0	2	4	0	4			0	6
7	ホッケー			0	8	0	8			0	8
8	バレーボール	174	0	174	6	6	12			0	186
9	体操	2	0	2	8	1	9			0	11
10	バスケットボール	54	0	54	0	0	0			0	54
11	レスリング	3		3	0		0			0	3
12	セリソウ	10	3	13	2	2	4			0	17
13	ウエイトリフティング	2		2	0	0	0			0	2
14	ハンドボール	9	0	9	4	1	5			0	14
15	自転車	2		2	1	0	1			0	3
16	ソフトテニス	9	1	10	11	0	11			0	21
17	卓球	1	1	2	9	1	10			0	12
18	軟式野球	58		58	6		6			0	64
19	相撲	10		10	0		0			0	10
20	馬術	1		1	1	0	1			0	2
21	フェンシング	5		5	0	1	1			0	6
22	柔道	11		11	3		3			0	14
23	ソフトボール	128	7	135	2	0	2			0	137
24	バドミントン	19	4	23	4	0	4			0	27
25	弓道	52	0	52	1		1			0	53
26	ライフル射撃	0	0	0	3	0	3			0	3
27	剣道	21	0	21			0			0	21
28	ラグビーフットボール	11	5	16	4	1	5			0	21
29	山岳(スホ-ツクライミング)	6	7	13	0	0	0			0	13
30	カー	4	0	4	1	0	1			0	5
31	アーチェリー	8	0	8	1		1			0	9
32	空手道	10	10	20	12	1	13			0	33
33	銃剣道	5	0	5	0		0			0	5
34	クレー射撃	4		4			0			0	4
35	なぎなた	7	0	7	0	0	0			0	7
36	ホッケー	11	0	11	0	0	0	0	0	0	11
37	ゴルフ	4		4			0			0	4
38	スキー	8	10	18	1	0	1	0	1	1	20
39	アイスホッケー	1		1	0		0			0	1
40	スケート	1		1	0	0	0	0		0	1
41	トライアスロン	2		2			0			0	2
合計		976	59	1,035	160	36	196	5	3	8	1,239

国民体育大会の監督に対する資格義務付けは、平成28年(第71回)岩手国体より全ての特例措置が廃止され、完全実施となる。なお、本県の人口10万人あたりのアスレティックトレーナーの登録数は全国第20位であり、九州では最も多い。

## 第3章

### 競技力向上に向けた具体的な取り組み

### 第3章 競技力向上に向けた具体的な取り組み

#### 1 取り組むべき4つの柱

区 分	内 容
(1) 組織体制の整備・充実	競技力向上対策を効果的に実施するために必要な組織の整備・充実と、関係諸団体との連携強化を図る。
(2) 選手の発掘・育成・強化・確保	佐賀国体において主力となる少年種別選手の発掘・育成・強化と、成年種別選手の強化・確保を図る。
(3) 指導体制の確立	指導者の養成及び資質の向上を図るとともに、適正配置を行い、計画的・継続的な指導体制の確立をめざす。
(4) 競技力向上のための環境整備	競技力向上対策を円滑に進めるために、練習環境の整備や選手のサポート体制の充実を図るとともに、積極的な広報活動に努める。

#### 2 具体的な競技力向上対策

##### (1) 組織体制の整備・充実

###### 現状・課題

- ◆ 競技団体によっては連盟・協会の会員数が少なく、強化担当が運営担当を兼務するなど、指導体制が十分でない。
- ◆ 競技力の向上に携わる関係諸団体の役割を明確にするとともに、相互に協力し合うシステムづくりが必要。

##### ① 競技団体における組織的・計画的な強化体制の構築

###### ア 組織整備への支援

競技団体が強化活動に集中して取り組むことができるよう、機能的な組織の体制づくりを支援する。

###### イ 強化計画の策定支援

競技団体による強化計画（長期計画及び年間計画）の策定に際し、先催県の関係者を講師として招聘するなど、策定作業がスムーズに行われるよう支援する。



#### ウ 社会的倫理観の啓発・醸成

スポーツに携わる関係者が、常日頃から高い倫理観を持って行動することは、スポーツの価値を守り、さらに高めていくことにつながる。勝利至上主義に陥るあまり、このことが損なわれぬよう、競技団体には、折に触れて啓発活動を行うよう促し、県民の模範となるような人材の育成を目指す。

#### エ アンチ・ドーピング教育・啓発活動の推進

スポーツは対戦相手やルールを尊重するためのフェアプレー精神の涵養のみならず、心身の両面にわたる健全育成に資するものとの認識に立ち、アンチ・ドーピングに関して、選手が適切な判断や意思決定を行うことのできる教育・啓発を行うとともにそれを支援する指導者や関係者を養成する。

### ② 関係諸団体との連携強化

#### ア 団体間ネットワークの構築

強化の主体となる県体育協会、競技団体、学校体育団体及び県内企業等が相互に連携し、強化活動に取り組むことができる環境の整備に努める。

また、少年種別選手の発掘・育成・強化の主要な場となる学校現場の更なる理解と協力が得られるよう、「佐賀県教育委員会・市町教育委員会協働会議」等と協力し、学校現場に働きかけ、情報の共有と意思疎通を図る。

#### イ 市町、競技団体及び教育機関等の連携・支援

国体の開催を契機として「わが町のスポーツづくり」や「スポーツツーリズム」が加速又は施策化されるよう、市町、競技団体及び教育機関等の連携を支援する。

### (2) 選手の発掘・育成・強化・確保

#### 現状・課題

- ◆ 競技人口の少ない競技においては、選手の発掘につながる早急な取り組みが必要。
- ◆ 優秀な選手が県外に流出する傾向にあるため、県内にとどまるような対策が必要。
- ◆ 成年種別選手の受け入れ先が県内に少ないため、希望はあっても戻って来られないケースがある。

## ① 少年種別選手の発掘・育成・強化

### ア スポーツ体験教室等の開催

県内の民間施設とタイアップしたスポーツ体験教室等の開催や「放課後子ども総合プラン<sup>(注)</sup>」との連携による出前講座の実施等、子どもたちに、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する。

また、公益財団法人佐賀県体育協会が主催する「チャレンジ・スポーツ教室」との連携を図り、特に未普及競技における競技人口の増加を目指す。

さらに、佐賀国体開催年に少年種別の選手となる年代（以下「ターゲットエイジ」という。下図参照）を含む子供たちの体力・運動能力の実態を把握・分析し、有望選手の発掘に努める。

注：厚生労働省及び文部科学省が「放課後児童クラブ」と「放課後子供教室」の一体化に主眼を置いて策定。

ターゲットエイジ早見表

年 度		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
回 数		第70回	第71回	第72回	第73回	第74回	第75回	第76回	第77回	第78回
開催地		和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重	栃木	佐賀
逆 年		8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年
学年	年齢									
一 般	26									成年種別
	25									
	24									
	23									
大 学 生	4 22									少年種別
	3 21									
	2 20									
	1 19									
高 校 生	3 18									少年種別
	2 17									
	1 16									
中 学 生	3 15									少年種別
	2 14									
	1 13									
小 学 生	6 12									少年種別
	5 11									
	4 10									
	3 9									
	2 8									
	1 7									

### イ 強化指定選手の認定

既に競技スポーツに取り組んでいるターゲットエイジの選手の中で、特に優秀な選手を「強化指定選手」として認定し、「オール佐賀」としての意識の高揚を図る。

また、佐賀国体エリートアカデミーを設置し、「強化指定選手」がより高い意識を持って競技活動に取り組むとともに、競技の枠を超えて切磋琢磨する事業を展開する。

### ウ 競技・種目転向型トライアウトの実施

選手の適性（潜在能力）を再発見し、より高い競技パフォーマンスが期待できる競技・種目に転向するための選考会（トライアウト）を実施する。

#### エ 強化拠点校（指定校・推進校）及び拠点地域の選定

佐賀国体で開催される競技については、過去の競技成績や地域性、会場地市町の情勢等を勘案しながら、運動部活動の新設を含めて強化の拠点となる学校や地域を選定し、その強化活動に対する支援を行う。

高等学校の強化拠点校については、県内トップクラスの学校を指定校、それに次ぐ学校を推進校とし、両校には「強化指定選手」の認定を受けた選手の他、高い競技力を有する選手や運動能力に長けた生徒が進学し、その学校で、引き続き選手の育成・強化を図っていく。

#### オ 県外出身者への支援

県外の学校から本県の強化拠点校（指定校・推進校）に進学する選手の中で、国民体育大会において上位入賞の可能性が高く、かつ人物的にも優れた選手に対しては、競技活動に専念できる環境を整える。

#### カ 進路支援ネットワークの構築

選手の進路実現（進学・就職）にあたっては、関係諸機関との連携を密に図るとともに、指導者同士が進路先に係る情報を共有し、県全体で支援していく仕組みづくりを推進する。

### ② 成年種別選手の強化・確保

#### ア 企業への協力依頼

企業に所属するチームや選手の国民体育大会への出場を依頼するとともに、強化活動を支援する。

#### イ ふるさと選手への支援

ふるさと選手制度を活用して本県から国民体育大会に出場する選手の強化活動に対する支援を行う。

また、同制度がよりスムーズに活用されるよう、所属企業や在籍大学等への協力依頼を早期の段階で行う。

#### ウ 大学における運動部活動の活性化に向けた支援

県内の大学に対し、選手の受け皿となる運動部活動の活性化を求めるとともに、その強化活動に対する支援を行う。

#### エ 雇用の創出

選手が安心して競技生活を継続できる環境を提供するため、官公庁や教育機関等における雇用の創出や促進を図る。

また、社風にマッチし、社内に新たな活力が生まれることなどを期待してくださる民間企業等に対して、選手の受け入れを依頼する。

### ③ 両種別共通の強化

#### ア 強化活動に対する支援

競技団体、強化拠点校（指定校・推進校）及び強化指定選手が、競技力の向上に資する県内強化合宿や県外遠征、大会参加等を計画・実施する場合は、その強化活動に対する支援を行う。

#### イ 未普及競技の育成支援

普及活動がうまく進まず、競技人口の少ない競技団体や国民体育大会における入賞歴の少ない競技団体に対しては特別な支援策を講じ、全ての競技団体において競技力の向上が図られるよう努める。

## (3) 指導体制の確立

### 現状・課題

- ◆ 優秀な選手を育成・強化するために、高い指導力を有する指導者の養成が必要。
- ◆ 特に指導者の数が少ない競技については、指導者として、即戦力となりうる人材の確保が必要。
- ◆ 学校における運動部活動において、指導者の専門性が生かされていない状況がある。

### ① 指導者の養成及び資質向上

#### ア 国内外の優秀な指導者を招聘した研修会の開催

国際大会に出場した選手や日本選手権等で入賞した選手を育成した実績のある国内外の指導者を招聘し、県内の指導者がトップレベルの指導法を学ぶ事業に対する支援を行う。

#### イ 県内指導者の派遣研修の実施

県内の指導者を国内外の優れた指導者のもとや中央競技団体等が実施する研修会に派遣し、最新の指導法や最先端の情報を収集する事業や、佐賀国体において監督を担う可能性の高い指導者を国民体育大会に帯同コーチとして派遣し、同大会における実践的な指導法を学ぶ事業に対する支援を行う。

#### ウ 資格取得の促進

国民体育大会の監督にその所有が義務付けられている公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者資格の取得を目指す指導者や、更なる上級資格の取得に挑戦する指導者に対する支援を行う。

#### エ 競技間の交流

指導者同士が競技の枠を超えて情報交換する場を設けるとともに、必要に応じて、技術や戦術、トレーニング法等を競技間で共有するための交流会等を企画・開催する。

#### オ 強化指定コーチの認定

競技団体から推薦された指導者を「強化指定コーチ」として認定し、さらに顕著な実績を収めた場合は「トップコーチ（仮称）」の「称号」を贈るなど、指導者がより高い意識と使命感を持って取り組むことができるよう働きかける。

### ② 指導者の確保

#### ア 雇用の促進

指導者として即戦力となり得る人材の、官公庁や民間企業等における雇用の促進を働きかける。

また、公立学校教員採用選考試験における「スポーツ・芸術特別選考」において、受験者の競技実績に加え、指導実績も考慮すること、さらに、全教科・科目の選考試験においてもスポーツの競技実績や指導実績を考慮することなどにより、優秀な指導者の確保に努める。

#### イ スポーツアドバイザー制度の新設

チームや個人を幾度も全国入賞に導くなど、高い指導力や豊富な指導経験を有する県内外の指導者に「スポーツアドバイザー（仮称）」を委嘱し、各競技団体における指導体制の充実を図る。

#### ウ SEA（スポーツ国際交流員）の活用

国際レベルの指導力を選手の育成・強化に生かすため、JETプログラム<sup>(注1)</sup>における職種のひとつであるSEA<sup>(注2)</sup>を活用する。

注1：The Japan Exchange and Teaching Programmeの略。地方自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(クレア)の協力の下に実施する外国青年招致事業。

注2：Sports Exchange Advisorの略。特定スポーツの専門家として、学校の生徒や地域の優秀な選手に対するスポーツ指導の補助等を行う。

### ③ 指導環境の整備

#### ア 専門的指導者の適正配置と外部指導者の活用

計画的・継続的に選手の育成を図るため、中学校と高等学校の人事交流や配置転換も視野に入れ、強化拠点校（指定校・推進校）には専門性の高い学校職員の配置に努

める。

また、競技の特性や必要性に応じて、外部指導者として地域人材活用を促進する。

#### イ 指導者が活動しやすい雰囲気づくり

国民体育大会は選手団が県の威信をかけて臨む大会であることから、指導者自らが所属する職場の理解や協力を求めることは勿論のこと、指導者が競技力の向上に資する研修会や競技会等に参加しやすい雰囲気づくりを支援する。

### (4) 競技力向上のための環境整備

#### 現状・課題

- ◆ 強化活動に必須でありながら、高額のため、競技団体では調達することが困難な競技用具等がある。
- ◆ 選手のパフォーマンス向上につながるスポーツ医・科学サポート体制の更なる充実が必要。
- ◆ 本県を代表して大会に臨む選手や監督を、県民挙げて応援する気運の醸成が必要。

#### ① 効果的・効率的な強化活動に対する支援

##### ア 競技用具の整備

競技団体、強化拠点校（指定校・推進校）及び強化拠点地域における強化活動がより効果的に行われるよう、競技用具の計画的な整備に努める。

##### イ 施設・設備の利用改善

円滑で効率的な強化活動を推進するため、強化の拠点となる施設の設置者等と連携を図りながら、利便性の向上や施設・設備の改善に努める。

##### ウ 補償体制の充実

指導者や選手が安心して強化活動に専念できる環境を提供するため、傷害保険や賠償責任保険に係る広報活動を積極的に行い、スポーツ安全保険等への加入を促進する。

## ② スポーツ医・科学サポート体制の充実

### ア スポーツ医・科学分野におけるエキスパートの養成

公益財団法人日本体育協会等が主催する専門の研修会や個別研修に参加し、資格の取得を目指す医師、トレーナー、薬剤師、歯科医師、栄養士等やスキルアップを志すスポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツファーマシスト、スポーツデンティスト、スポーツ栄養士等（以下「スタッフ」という。）に対する支援を行う。

### イ エキスパートの派遣及び配置

国民体育大会をはじめとする主要な大会にトレーナーを派遣したり、専属スポーツファーマシストを各競技に配置するなど、選手のパフォーマンスを最大限に引き出すため、スタッフが選手をサポートする体制づくりを推進する。

## ③ 広報活動による県民意識の高揚と情報戦略

### ア SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

フェイスブック（Facebook）やツイッター（Twitter）等のSNSを活用して、日頃の強化活動の様態や各種大会において優秀な成績を収めた選手の情報を逐次発信し、全县挙げて「オール佐賀」を応援する気運を高める。

### イ マスメディアとの連携


新聞・ラジオ・テレビ等のマスメディアとの連携を図り、各競技団体の取組状況等、スポーツに関する情報提供の機会を増やすことで、スポーツが県民にとって一層身近なものとなるよう働きかけるとともに、「誰もがスポーツを楽しむ環境づくり」の一翼を担う。

### ウ 情報収集と分析

先催県や強豪都道府県が取り組んでいる強化対策事業等の情報を収集・分析し、関係諸団体に還元しながら、確実性と現実性を兼ね備えた戦略的な強化対策事業につなげていく。

### 3 競技力向上対策の主なスケジュール

年 度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	
回 数	第70回	第71回	第72回	第73回	第74回	第75回	第76回	第77回	第78回	
開催地	和歌山 (8年前)	岩手 (7年前)	愛媛 (6年前)	福井 (5年前)	茨城 (4年前)	鹿児島 (3年前)	三重 (2年前)	栃木 (1年前)	佐賀 (開催年)	
区 分	発掘・育成期			充実期			完成期			
目 標	30位台前半			20位台前半			10位台前半	10位以内	1位	
組織体制の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強化計画の策定支援</li> <li>○ 市町、競技団体及び教育機関等の連携・支援</li> </ul>	対	競技団体毎『強化計画』の策定支援及び実践指導						佐	賀
			市町、競技団体及び教育機関等の連携・支援							
選手の発掘・育成・強化・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強化活動に対する支援</li> <li>○ 強化拠点校等の選定</li> <li>○ 運動部活動等の設立</li> <li>○ 県外出身者への支援</li> <li>○ 強化指定選手の認定</li> </ul>	策	選手育成事業 活動補助事業						賀	国
			強化拠点校等の選定及び強化活動支援							
			運動部活動等設立支援事業							
			選手支援事業							
指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導者の養成及び資質向上</li> <li>○ 指導者の雇用の促進と適正配置</li> </ul>	本	強化指定選手の認定						佐	賀
			指導者招聘事業 指導者研修事業							
競技力向上のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 競技用具の整備</li> <li>○ トレーナー等の育成・派遣</li> </ul>	部	指導者の雇用の促進と適正配置						佐	賀
			指導者の雇用の促進と適正配置							
		立	環境整備事業						佐	賀
			トレーナー等養成事業							

 は平成28年度当初からの予算化事業

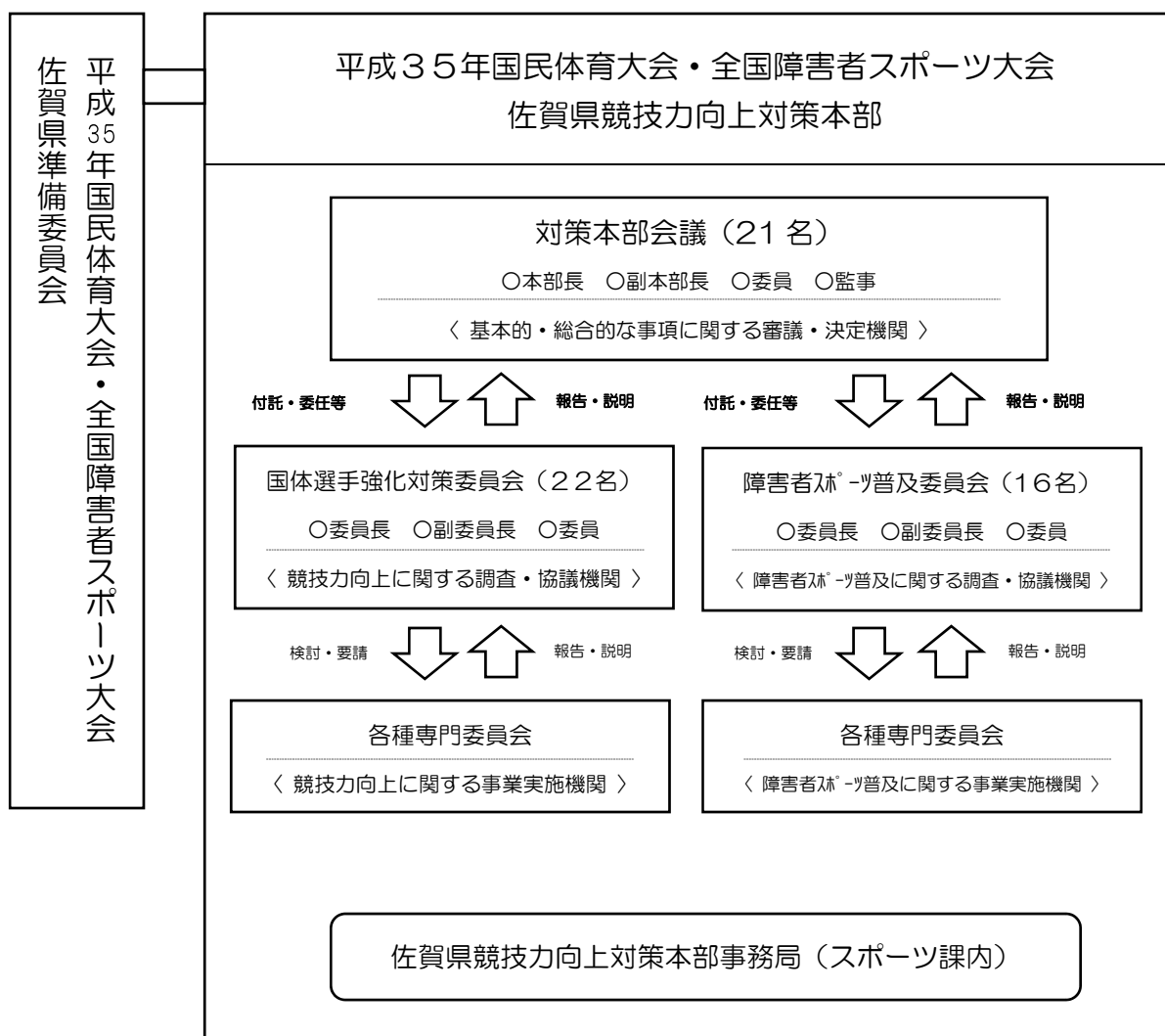


## 第4章

### 競技力向上基本計画の推進体制

## 第4章 競技力向上基本計画の推進体制

### 1 推進体制の組織図



### 2 推進体制の充実・拡充

#### (1) 基本計画に基づく競技力向上対策事業の展開

競技団体の現状を公平に分析・評価した上で、競技力向上対策事業に係る各種予算を適正に配分・執行管理し、競技力の着実な向上につなげる。

また、競技団体における強化計画（長期計画及び年間計画）の目標達成状況や活動内容等を総括的に検証するとともに、指導・助言を行う。

#### (2) 新たな競技力向上対策の立案と組織の充実

既実施の競技力向上対策事業の成果や課題を検証し、必要に応じて基本計画の見直しを行うなど、現状に即した競技力向上対策を立案する。

また、より効果的・効率的な競技力向上対策事業を推進するにあたり、適宜、競技力向上対策本部の組織の充実を図る。

